

乳児期の顔と首の浸出症状から全身へ広がり 6 か月で皮膚状態が安定した小児アトピーの経過 (9 歳男児)

症例 ID：001-09-YX | 記録日：2002 年 10 月 11 日

1. 診断・治療前経過

生後 3 か月頃から顔に湿疹が出て、首の周囲は浸出液、亀裂、出血を伴い、頬も赤くただれました。小児科と皮膚科でステロイド外用薬とスキンケア外用薬を使用しました。

1 歳頃、首の皮膚に外用部位との境界が分かるほど色の違いが生じたため、ステロイドを中止しました。2 歳を過ぎると症状は体幹、両肘、大腿、両膝、臀部へ広がり、掻きむしりと不眠が続きました。複数の治療を試した後、4 歳半で松本医院を受診しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期の顔・首の症状に対し、ステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	生後 3 か月頃から 1 歳頃まで使用しました。
中止時期	1 歳頃に中止しました。
来院前／後	来院前に使用しました。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 3 か月頃	発症	顔の湿疹と首周囲の浸出液、亀裂、出血がみられました。
1 歳頃	ステロイド中止	首の皮膚に色の境界がみられ、ステロイドを中止しました。
2 歳以降	症状の拡大	体幹、肘、太もも、膝、臀部へ症状が広がりました。
4 歳半	治療開始	松本医院を受診し、漢方入浴と煎じ薬を開始しました。
開始約 2 か月	症状の波	湿疹が出たり引いたりする状態を繰り返しました。
開始約 6 か月	皮膚の変化	広範囲に出ていた湿疹が目立たなくなりました。
9 歳時	長期経過	夏に陰部周囲へ湿疹が出ることはあるものの、他の季節は皮膚症状がほとんどみられず、煎じ薬を継続していました。

4. ピーク時期

ピークは、2 歳以降に症状が体幹と四肢、臀部へ広がり、掻きむしり、泣き、不眠が続いていた時期です。

5. 困りごと

- 首の浸出液、亀裂、出血が続きました。
- 症状が全身へ広がり、夜間も眠れませんでした。
- 食事、衣類、洗剤など生活全般の調整が必要でした。
- 長時間の漢方入浴を毎日続けました。

6. 経過のまとめ

治療開始後約 2 か月は症状の波が続きましたが、約 6 か月後には広範囲の湿疹が目立たなくなりました。9 歳時には夏に一部症状が出ることはあるものの、その他の季節は皮膚がきれいな状態で過ごしていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。